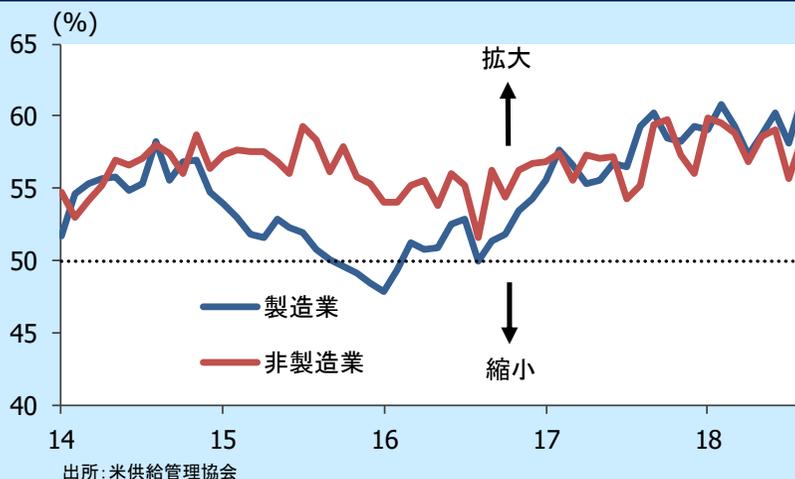


# 米国：ISM景況指数（2018年8月）

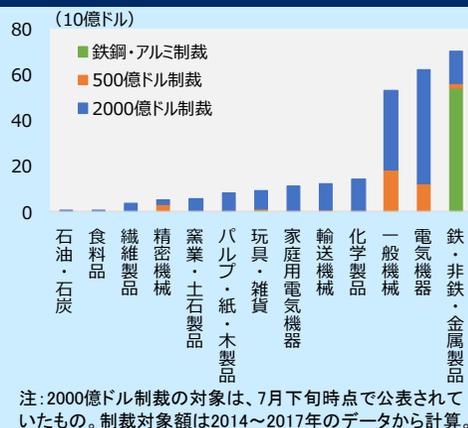
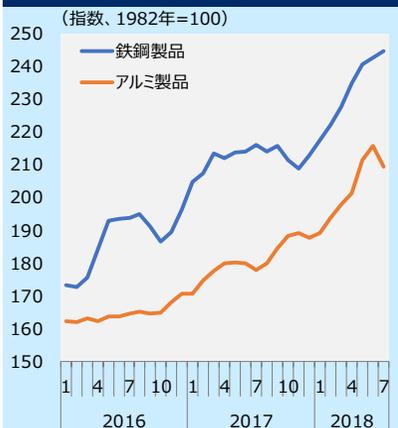
## —製造業の景況感は約14年ぶりの高水準—

MRI Daily Economic Points  
September 11, 2018

図表1 総合指数



図表2 鉄鋼・アルミの価格指数 図表3 各制裁に含まれる生産財総額



### 評価ポイント

#### 今回の結果

- 8月のISM製造業景況指数(総合、6/4公表)は、61.3と前月(58.1)から上昇し、約14年ぶりの高水準となった。
- 指数を構成する5項目すべてが上昇。特に、新規受注(65.1)が前月(60.2)から大幅に上昇し、全体を押し上げた。ただし、入荷遅延(64.5)の上昇は、保護主義化が供給網に悪影響を及ぼしている可能性を示唆している。業種別では、18業種のうち16業種が50を上回り、幅広い業種で活動が拡大した。
- 8月のISM非製造業景況指数(総合、6/6公表)は、58.5と前月(55.7)から上昇。2カ月ぶりの上昇だった。
- 指数を構成する4項目すべてが上昇した。特に、ビジネス活動(60.7)と入荷水準(56.0)が大きく上昇。業種別では、18業種のうち16業種が50を上回り、幅広い業種で活動拡大が継続した。

#### 基調判断と今後の流れ

- 企業は良好な景況感を維持。背景には、①堅調な内需や、②法人税減税による企業利益の増加がある。先行きも、上記①、②に支えられ、企業活動は底堅く推移すると予想するが、保護主義化の影響が徐々に表れ始めている点は懸念される。例えば、18年3月に関税率が引き上げられた鉄鋼・アルミの価格は、その後大きく上昇している(図表2)。
- 今後も、トランプ政権の保護主義的な動きには注目する必要がある。政権は、2000億ドル相当の中国製品に対して、25%の関税率上乗せを検討している。その制裁対象には、幅広い生産財が多く含まれているため(図表3)、実行に移された場合、生産コストの上昇が予想される。
- ①貿易相手国の報復関税などにより、輸出が減少する場合や、②輸入関税の引き上げが、国内物価の上昇を通じて、企業活動や消費を抑制する場合などには、企業の景況感が悪化しかねない。